

科 目 名	保育者特論		副題		
担 当 者	高嶋 景子				
開 講 期	前期	単位数	2 単位	配当年次	1 ・ 2 年次
授業の概要	子どもが主体となって自ら学ぶプロセスをして展開される保育においては、常に、予想外の出来事が生起し、刻々と状況が複雑に変化していく。保育者は、そのような複雑な状況と対話しつつ、眼前の子どもの思いや課題を丁寧に探り、その育ちを支える関わりや活動の在りようを検討し、実践していくことが求められる。そうした保育者の専門性は、D.ショーンの指摘するように、体系的な知識や法則を適用して問題を解決するような「技術的合理性」によって成り立っているものではなく、「反省的实践家」として、その在りようを読み解いていく必要があると考えられる。本講義では、そうした保育者の専門性について探究するため、まずは、「保育」という営みや、そこでの子どもの学びや育ちを理解するための視座を検討し、それを踏まえて、保育者の専門性と、その専門性の深まりを支える「省察」のプロセスと周囲の関係構造について考察していくこととする。				
授業のねらい・到達目標	1. 子どもの「学び」や「育ち」を捉えるための保育者のまなざしの在りようを探ると同時に、それらの「学び」や「育ち」を支える保育実践の構造と、それを実践する保育者の専門性を読み解くための様々な視点を学ぶ。 2. 保育者の専門性が深まっていく過程と、その過程を支える周囲の関係構造について探究していくための問いの持ち方、考え方を獲得する。				
授業の方法・授業計画					
1	ガイダンス				
2	保育者の専門性に関する研究の動向（1）～歴史の変遷を辿る～				
3	保育者の専門性に関する研究の動向（2）～OECD報告等における研究動向～				
4	「保育」という営みを読み解く多様なアプローチ（1）～個体能力論から関係論的アプローチへの転換～				
5	「保育」という営みを読み解く多様なアプローチ（2）～保育者を取り巻く多様な関係構造への着目～				
6	「保育」という営みを読み解く多様なアプローチ（3）～正統的周辺参加論とは～				
7	「保育者になるということ」（1）～「子どもの声を聴く」とは～				
8	「保育者になるということ」（2）～子どもがケアする世界をケアするために：鑑識眼的なまなざし～				
9	「保育者になるということ」（3）～子どもがケアする世界をケアするために：保育における即興性～				
10	「保育者になるということ」（4）～子どもと保育者の相互主体性～				
	保育者の学びを支える多様な対話（1）～省察的实践家としての保育者の専門性～				
12	保育者の学びを支える多様な対話（2）～事例を通して読み解く「省察」の生成過程～				
13	保育者の学びを支える多様な対話（3）～「省察」を引き出す保育カンファレンスの意義と役割～				
14	保育者の学びを支える多様な対話（4）～対話のもつ「多声性」への着目～				
15	まとめ				
期末					
授業に関する連絡	本授業は講義と演習の両形式で行う。演習では、文献購読及び実践事例を基にした討議を行うためのレジュメの作成を担当を課す。				
評価方法及び評価基準	授業内の発表や討議及びレジュメ作成（50%）、期末課題等（50%）を基に総合的に評価する。				
事前・事後学習の内容	授業の展開過程で適宜参考文献を紹介するため、できるかぎりそれらを事前に読んで授業へ臨むこと。また、授業後は振り返りを十分に自分の考えを整理すること。				
履修上の注意	各自のテーマや関心領域に対し探究心を持って、授業内の議論にも積極的に参加すること。				
テキスト	佐伯胖編著『「子どもがケアする世界」をケアするということ』ミネルヴァ書房, 2017				
参考文献	子どもと保育総合研究所編佐伯胖他著『子どもを「人間としてみる」ということ』ミネルヴァ書房, 2013 倉橋惣三著『幼稚園真諦』フレーベル館, 1998				